



栄養のあるおいしい授業を 実現する *Junior Sunshine*

萩野 浩明

川崎市立高津小学校
総括教諭

児童に必要な力をつけさせるために授業づくりを行う教師の営みは、健康な体づくりのために栄養バランスや量を考えて料理をすることと似ています。そう考えると、外国語の教科書は、献立を決める際に参考にできる料理本のようなものと言えます。本稿では、料理が苦手だという先生方、すなわち外国語の指導に不安がある先生方も負担感なく取り組める *Junior Sunshine* のよさをお伝えします。

■ 毎時間のメニューを1ページで記載

この教科書で特筆すべきは、原則、1時間の学習活動が過不足なく1ページにまとめられていることです。すなわち、栄養バランスがよく、適度な品数のメニューが毎食分そろっているということです。これは、他教科も指導する先生方にとってありがたいことです。「今日は何を作るか」と悩む必要も、買い出しに行く必要もありません。紙面を追うだけで、毎時間の学習内容がイメージできます。児童にとっても、学習の見通しがもちやすい構成です。

メニューは、栄養の偏りがなく、バランスの取れた4技能5領域の資質・能力を育成できる内容となっています。また、学習活動は一貫して音声面を中心に行い、受信から発信へという学習の流れに沿って配置されています。

一見、品数が多い印象を受ける箇所もあります。しかしよく見ると、食べ合わせのよい品々が並んでいます。例えば、読む活動においては、音声に十分に慣れ親しんでいな

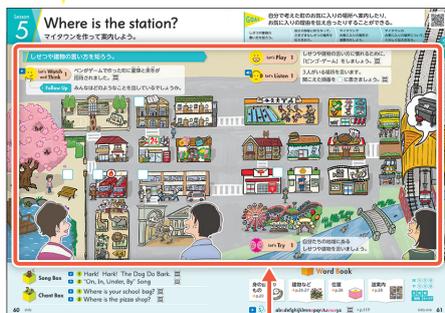
い中で文を見せても、消化不良を起こしがちです。音声と意味を一致させる経験をした後で、音と文字を結び付けることができるように、「音声から文字へ」という理にかなった学習プロセスが大事にされています。

■ 活動のねらい等がぱっと見てわかる

食品や食材の役割を理解し、何をどのように食べるべきかを自覚することは、主体的で健全な食生活につながります。教師は、指導目標を達成するために、意図をもって活動を組み合わせて授業を構成します。意味のある言語活動のために設定を工夫し、ささやかなゲームであってもねらいをもって行います。本教科書では、活動の指示文にねらいや目的や場面、状況などが具体的に示されています。何のためにその活動を行うのが容易に把握でき、指導の重心がぶれなくなります。記録に残す評価の領域と観点の例が紙面に記されていることも画期的です。指導と評価の一体化を図りながら、計画的に児童の達成度を見取ることができます。

教科書の紙面どおりに展開するだけで魅力ある授業を提供できますが、指導に慣れてきたら、児童がより好む味付けをする、旬の食材を取り入れる、不足しがちな栄養素を補充するといった発想で、アレンジを加えてはいかがでしょうか。成長期の児童が食を楽しみながら丈夫な体を作っていけるよう、料理の腕を磨いていきたいものです。

第1時



[5年] pp.60-61

第2時



[5年] pp.62-63

第3時

2 過不足のない適切な活動数で、4技能5領域をバランスよく育成できます。

3 「音声から文字へ」という言語習得の仕組みに合った学習の流れが大切にされています。

1 1時間の学習活動がぱっと見てすぐにわかります。